

多摩川河口干潟の生きもの観察会 第4回

日時：2019年7月6日（土）12:30～15:30

場所：川崎市環境総合研究所 1階大会議室、多摩川河口干潟（川崎区殿町3-25-13地先）

干潮時間（川崎の潮位）：10cm（13:32） **天気**：雨時々曇り

テーマ：「干潟の生きものスケッチ教室」

対象：小学生以上

参加者：60名 こども34名、おとな33名

講師：江良弘光氏（サイエンスグラフィックイラストレーター）

小林 範和氏（鶴見川流域ネットワーク）

スケジュール：

時間	内容
12:15	受付開始
12:30	開会（あいさつ、今日の説明、講師・スタッフ紹介）
12:40	講義 ●干潟ってなんだろう？ シジミとアサリによる水質浄化実験 ライフジャケットの着用方法・身支度準備
12:55	観察会 ●干潟に行ってみよう！ 干潟に出て、生きものの採取と観察
14:00	スケッチ教室
15:15	貝の浄化実験の確認、まとめ
15:30	アンケート記入、閉会

内容：

●講義

- ・干潟のカニの種類とすみわけ
- ・干潟の干満のメカニズム、生態系の特徴
- ・干潟に暮らす生きもの
- ・干潟の水質浄化の仕組み

●安全講習

- ・履物、ライフジャケットの着用について

●準備

参加者の服装・装備

貸出：ライフジャケット、バケツ、移植小手またはシャベル

各自持参：長靴（田植え用長靴、または履き口フード付きのもの、脱げにくいもの）、

よごれてもいい服（長袖長ズボン）、軍手、帽子、飲み物

※長靴を持っていない方には、田植え用長靴の貸出を行いました。

●観察会及びスケッチ

干潟の生き物たちは周囲の環境ごとにすみ分けているので、そこに注目しながら、どこにどんな生き物がいるか観察しながら採取しました。研究所に戻り、スケッチを行ううえで、生きものを観察するポイントを教わりながら、カニや貝などをよく観察してスケッチをしました。

●シジミによる水質浄化実験

観察会の出発前に、3つの容器にきなこをいれて、2つの容器にはシジミ、アサリをそれぞれ投入し、3つ目の容器には何も入れず、観察から帰ってきたら（約1時間半～2時間後）どうなっているかを観察しました。

今回観察した生きもの (採取した生きものは観察後、元の場所にもどしました。)

全 11 種類

- 甲殻類 カニ 9 種 (ヤマトオサガニ、タカノケフサイソガニ、チゴガニ、コメツキガニ、アシハラガニ、ベンケイガニ、クロベンケイガニ、カクベンケイガニ、アカデガニ)
- 貝 類 2 種 (ヤマトシジミ、マガキ)



<参加者の感想> (一部抜粋)

- ・カニは、はさみをわざとはずすことができることがわかりました。(子ども)
- ・楽しかった。穴があいていても、(生きものが) なかなか入っていなかった。水が減ったり、増えたりしている穴に貝がいた。(子ども)
- ・目の長さが住む場所によって違うことを初めてしりました。(子ども)
- ・干潟に出るなんて初めて！生活に身近な多摩川でこんな生物がいることを体験できたことが嬉しかったし、楽しかった！怖がる息子もカニを触って捕まえようとしている姿にも感動しました。もう少し長く干潟で観察したかったです。(大人)
- ・干潟の機能や重要性がわかっただけでなく、体感でき、大変勉強になりました。ありがとうございます。更にスケッチではよく見ることで生物の特徴が初めて分かるなど勉強になりました。ありがとうございます。(大人)
- ・シジミの浄水実験が良かったです。一昨年自由研究でろ過実験をしたので、シジミを知って入れれば同時にやりたかったです。(親的に) (大人)